

ニッポンハム食の未来財団 2024 年度第一期 団体活動支援助成 完了報告書

企画活動名	食物アレルギーサインプレートの普及と学習漫画ポスターによるアレルギー啓発
フリガナ	ヤマグチ カオリ
申請者（代表者）氏名	山口 かおり
団体名（正式名称）	団体名：NPO 法人ピアサポート F. A. cafe 申請者の役職・肩書など：理事長

1. 活動結果要約

弊会では食物アレルギーの理解が不十分で、周囲に伝えられない幼い患児を、誤飲誤食事故から守るツールとして食物アレルギーサインプレートを医療機関から配布する活動を行っている。患者が成長し小児科を卒業した後も利用したいという声を内科、呼吸器科、アレルギー科の医師や患者本人からもいただいたため、ユニバーサルデザインを採用したアレルゲンをサインプレートに追加し、幼い子どもから大人まで活用できる仕様とした。

サインプレート配布先の医師に意見を聞いたところ、期待できる効果は周囲の理解・協力を得る、親子で理解を深める、患児が疾患について理解する、誤食を防ぐ等の声が寄せられた。また少数であるが災害時の対策にもなるのご意見もあった。

サインプレート配布と同時に、学習漫画風のアレルギー啓発ポスターを、5 種類、「給食」、「調理実習」、「運動会」、「宿泊行事」、「災害」といった子どもたちのイベントに合わせたシチュエーションでアレルギーの知識をわかりやすく楽しく学べるようサインプレート配布先の医療機関へ送付し掲示を依頼した。待合室などに掲示してもらうことでアレルギーがない親子にも食物アレルギーを理解してもらうことが可能となる。

今回制作したサインプレートは「第三者」が客観的に評価し、優れたコミュニケーションデザイ

ンを表彰する UCDA アワード 2024 「みんなのピクト」利用の好事例で奨励賞を受賞した。

2. 活動目的

重篤な食物アレルギー患者は微量のアレルゲンの誤食誤飲でアレルギー症状が出てしまうので、毎日3回の食事だけでなく、間食やおやつ、その他交流の場面などで、一日に何度も、飲食の管理が必要な上に、その都度誤食の不安にさらされる。食物アレルギー患者を持つ保護者の日々の生活の食事管理は困難を極め、患者自身のみならずその家族の負担は計り知れない。

集団生活における食物アレルギー対策は単にアレルゲンを摂取しないことであり、それ以外は通常の日常生活が可能である。しかし様々な交流の場では飲食を伴うことが多いため、「食べない」ための判断は時に周囲とのつながりを断絶してしまう。誤食を恐れて慎重になりすぎるあまり、地域行事やイベントの参加をあきらめて患者親子が孤立してしまうことや孤独感にさいなまれることも少なくない。

そのため付けるだけで周囲に食物アレルギーを伝えるサインプレートは日頃から接する友人の理解や集団生活内での誤食防止にも繋がる。アレルギーがあってもなくても、アレルギーの理解を深め、友人を思いやる心が育つきっかけになることを目標に展開している。

3. 活動方法

●食物アレルギーサインプレート医療機関へ配布

1. 食物アレルギーサインプレート

【制作物】

現行の食物アレルギーサインプレートに下記の改訂を行った

- ・ イラストアレルゲンの全面的な描き直しにより、線をすっきりと見やすい仕様とした
- ・ 昨年度追加されたマカダミアナッツのイラスト追加
- ・ 正しい情報を得るためのポータルサイト「アレルギーポータル」を紹介

【配布先】

- ・ 「アレルギー疾患対策基本法」に沿って医療の提供体制の充実を図るために設けられた中心拠点病院、全国 47 都道府県アレルギー疾患医療拠点病院と、食物アレルギー研究会に掲載されている食物経口負荷試験実施施設、及び当会に配布協力を申し出た医療機関 602 か所へ各 20 部
- ・ 拠点病院となっている 4 医療機関、国立病院機構相模原病院、成育医療研究センター、昭和大学病院、都立小児総合医療センターへは各 500 部

【計画遂行にあたって】

以前より、慈恵医科大学病院小児科医局 後町法子先生、堀向健太先生から現在のイラストでは弱視の人には線が重なったり色が見分けられない等の問題が挙げられていた。そのため昨年度の改訂では単色で食品パッケージにも広く活用されているピクトグラムと一緒に掲載することとしたが、今年度はイラストのアレルゲンも全体的に描き直しを行った。

サインプレート配布に協力いただいている医師に意見を聞いたところ、期待できる効果は周囲の理解・協力を得る、親子で理解を深める、患児が疾患について理解する、誤食を防ぐ等の声が寄せられた。また少数であるが災害時の対策にもなるのご意見もあり、企画意図に沿っていることを確認できた。

一方、患者本人から意見を聞いたところ、アレルゲンを貼るスペースが最大 3 個なのでもっと大きめにとって欲しい、英語表記があってもよいのでは、緊急時に対応できるようなマニュアルを付けたしたらどうか、エピペンマークをもっと大きくしてほしい等具体的な声をいただき、来年度以降の改訂に繋げていきたい。

【予算】

以前より利用していたヤマト運輸のクロネコ DM 便廃止に伴い、ネコポスを利用することとした

め想定よりも運送費がかかってしまった。

2. アレルギー啓発ポスター

【制作物】

学習漫画風のアレルギー啓発ポスター

5種類 「給食」、「調理実習」、「運動会」、「宿泊行事」、「災害」

【配布先】

同上

【計画遂行にあたって】

思春期に向かう子供たちにアレルギー全般を無理なく知ってもらうため、学校行事をテーマにしたポスターで啓発することとした。アレルギーの疾患や注意点、関連情報などを盛り込んで、子ども達が興味を持って読んでもらえるよう学習啓発マンガ形式とし、給食、調理実習、運動会、宿泊行事、災害の5種類を、医療機関で掲示してもらうことで、一般に周知する。

また NPO 法人アレルギーを考える母の会のご協力を得て、石川県の被災地の教育委員会へも送付しご活用いただいた。

4. 結果及び波及効果

食物アレルギーによる誤食事故を防ぐため、自己判断による除去ではなく医療機関を受診し正しい診断を受けることが重要である。サインプレートを医師から患者に配布する補助ツールとして、全国アレルギー中心拠点病院と専門医療機関 602 か所からの配布連携を実現した。

またサインプレート配布に協力いただいている医師に意見を聞いたところ、期待できる効果は周囲の理解・協力を得る、親子で理解を深める、患児が疾患について理解する、誤食を防ぐ等の声が寄せられた。また少数であるが災害時の対策にもなるとのご意見もあり、企画意図と沿っているこ

とを確認できた。

ポスターは掲示するだけで啓発ができるので、一般啓発に適している。今回 NPO 法人アレルギーを考える母の会にご協力いただいたことで被災地に届けることができた。また全国から問い合わせがあった場合は無償でお届けする仕組みを構築したので、医療機関だけでなく学校など教育現場や避難所等でも広く活用してもらえるよう働きかけていく。

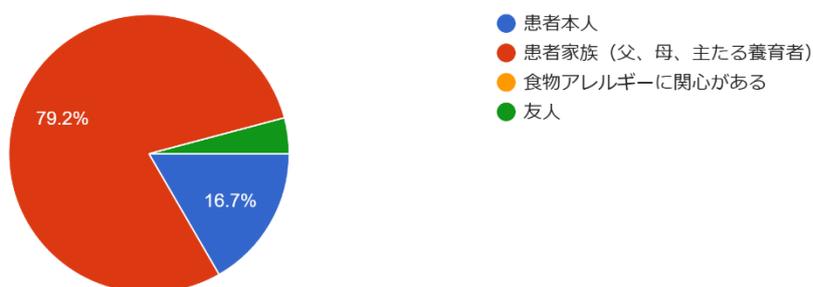
今回制作したサインプレートは「第三者」が客観的に評価し、優れたコミュニケーションデザインを表彰する UCDA アワード 2024 「みんなのピクト」利用の好事例で奨励賞を受賞した。

さらに広く小児科から配布してもらえるよう食物アレルギーサインプレートの仕様を検討している。初めて食物アレルギーと診断されるのは小児科であることが多く、医師から告げられた疾患に対して、親子が今後の生活への不安を解消できる冊子づくりを目指している。令和 6 年度に神奈川県小児科医会から配布を行い、改訂し全国の小児科へも広げていきたい。

患者自身の声を聞く機会あまりなかったため、2025 年 3 月～4 月に弊社ボランティア F. A. フレンドズにサインプレートを配布し感想を収集した。回答は 24 名、患者と患者家族が 95.9%。

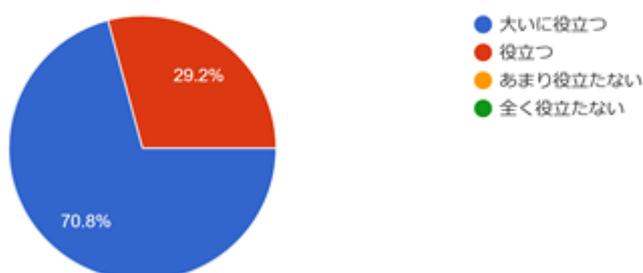
1. 回答するあなたの立場を教えてください

24 件の回答



4-4. 食物アレルギーサインプレート

24 件の回答



食物アレルギーサインプレートは100%が役立つと高評価を得た。

一方で、改善点としてアレルゲンを3個以上貼りたい方が予想よりも多いことに気づき、来年度以降の改善点が明確になった。

参照：自由記述

マルチアレルギーの人もいれば、3つ以上の人もいるので、貼り付け欄がたくさんあるパターンの冊子もあると嬉しいです。
我が家の場合、最初は3つでしたが、途中で2つ増えました。
私の場合だと5個以上（下手すると7個以上？）はあるので、多分貼りきれないと思いますと思います。私のように複数のアレルギーがある子供がこの冊子を受け取った場合に、冊子や作成者に想定されていない患者のように見えて、寂しく思わないかと気になりました。
「食べられません」の項目が、最大で3個のアレルゲンに対応しているように見えます。もう少しスペースを大きい目にしても良いのではないのでしょうか。
魚介類を出して欲しいです。もしくは、空白をもう一つ増やして欲しい。
状況が変わったり(食べられないものの変化や年齢などの)、複数作成が必要な時に面倒です。Webなどで情報を選択するとPDFが作成されて印刷できるようなのがあったら便利かなと思います。
アレルゲン食物イラスト、「食べられません」「食物アレルギーです」には小さな文字でも英語表記を入れるとより良いかなと思います。
イラストは可愛く、文字もわかりやすく、良いと思います。
緊急時にアレルギーに関する知識がない人でも適切な対応が出来るような簡単なマニュアルを付け足すのはどうか。
エピペンがあります、のマークが1.5倍位の大きさのものが別にあると便利かなと思いました。(エピペン携帯を強調したいとき)

5. 今後の活動について

当会の活動のベースである無料患者相談会や患児ワークショップの定期開催と患者を医療機関につなぐ食物アレルギーサインプレート配布により、賛助会員の増加につなげる。継続的に配布するための協力を依頼し資金を確保したい。

食物アレルギー患者の多くは小児科で診断される。しかし専門医でない場合もあり詳しい情報を得ることができず、不安を抱えたまま過ごすこともあるため、食物アレルギーの食事、伝える意味、

緊急時対応、ヒヤリハット事例などの情報を掲載したり、患者アンケート結果から多アレルゲン欄についての改訂を行い配布を継続していきたい。またアレルギーの理解を深めることができるポスターを病院だけでなく学校や避難所などに掲示してもらい、周囲の人々にも啓発を促す。

社会全体で食物アレルギーの理解が進めば、誤食事故を防ぐことにつながる。そのため、患者本人が疾患を理解することに加え、周囲の人への啓発も重要である。今後も緊急時対応を含めた講演会の開催を継続していきたい。

以上